面木石搞出

ハ 13
2726

へ 13
2726

石橋山根元記初語

戯著 南粲 楚満人

人皇八十代高倉院御宇ゝ平相國清盛入道淨海と云者朝恩ゝ誇て一族高位ゝ昇く奢侈の餘り當今を押下ゝ娘中宮腹の幼宮安德帝を即位奉りて外威ゝ權を以て朝政を自恣ゝ剩さへ後白川法皇を鳥羽の離宮ゝ籠奉り茂仁親王を害ゝ公卿四十餘人官職を止め或ハ失ひ或ハ遠流ゝ三井寺南都の二寺其外金銅十六丈の盧遮那佛を燒奉り惡逆日々增長せ茲ゝ故左馬頭源義朝の三男前右兵衛佐頼朝ハ先年平治の合戰ゝ生捕ゝて已ゝ可討ゝと清盛の継母池禪尼の命ゝ寄て伊豆國ゝ流され國人伊東入道祐親ゝ館ゝて二十餘年ゝ春秋を送りける彼國ハ伊豆相摸武藏安房上總下總ハ先祖頼義義家ゝ源氏ゝ隨ひて主君の如く思ひられハ大小名頼朝ゝ心を傾け源家再興を

故横山有策氏
昭和四年五月
寄贈

門へ13
號2726
函

頼朝

行家

盛長
秀義
景義

頼朝
時政
文覺

義實
宗遠
遠平

頼朝
宗時
時政
經高

時政
宗時

頼朝
洲崎
加藤次

景康
閑屋

助政
川崎

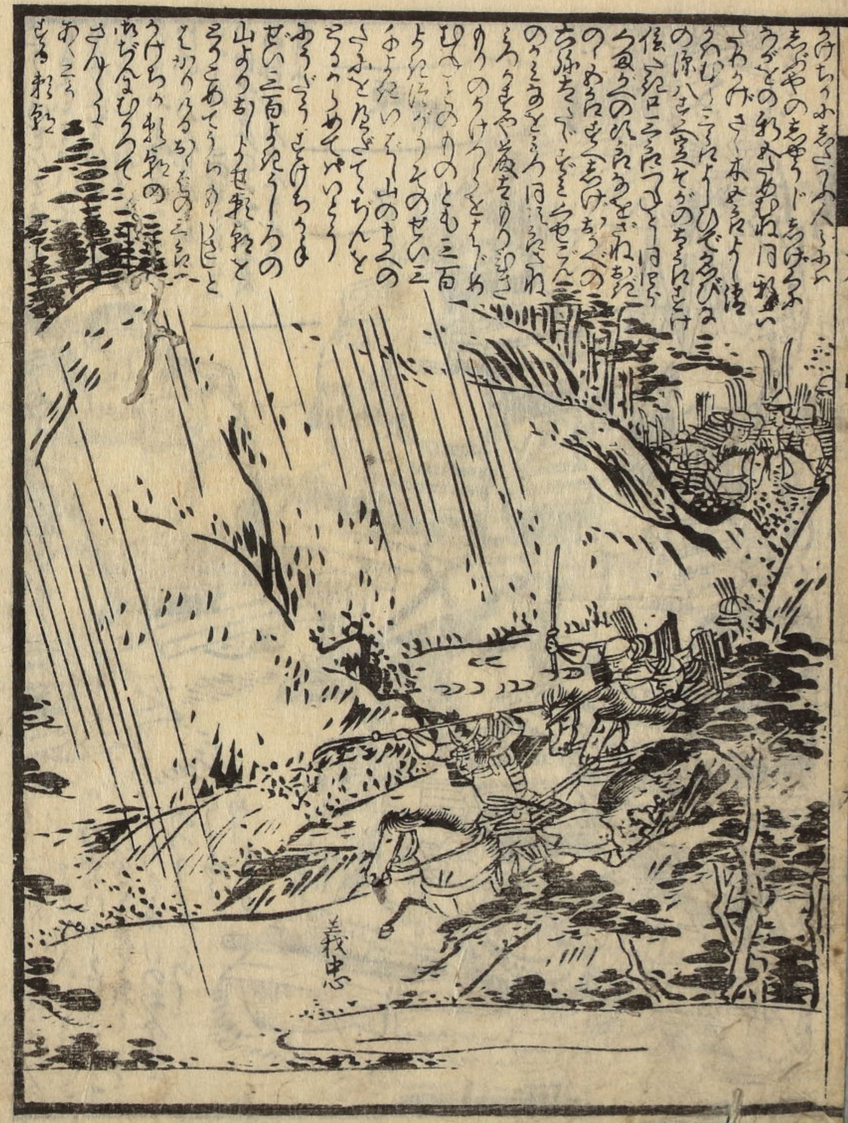
景廉

山木判官

吉本小太郎

會本石橋山

頼朝


義忠

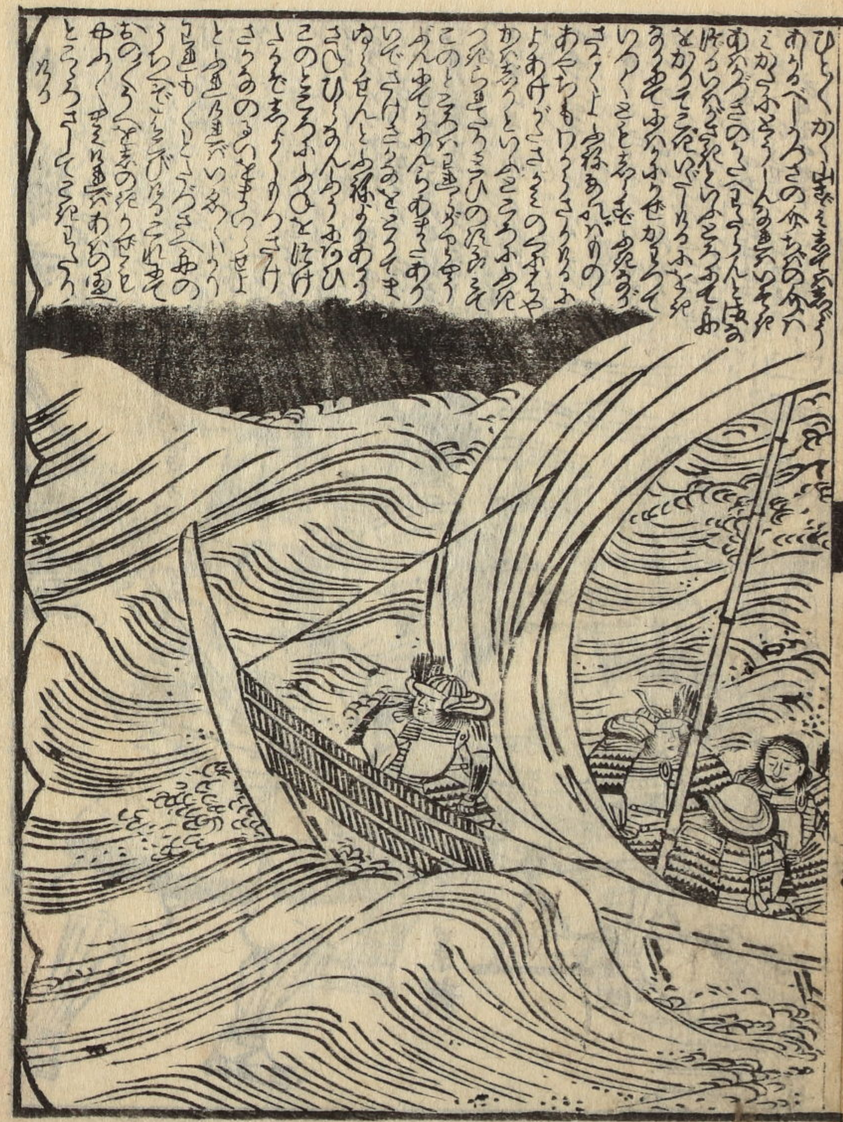
長尾
景久
主我忠

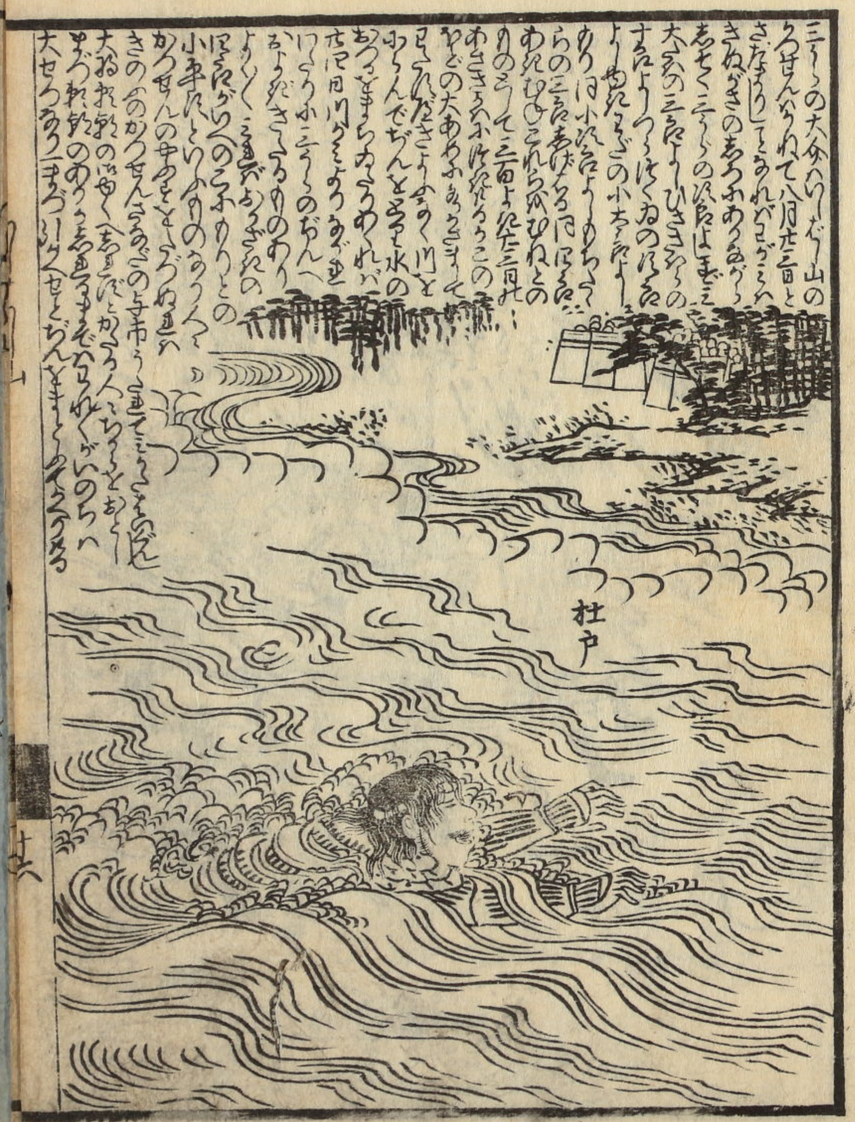
豐三
家安

大とん一ゆうふあのうじ
けらハせをてんまうの
こうゆんハまんちゃ
ようらへ二代のそんし
さんのさうゆの
ともものこあんさ百ん
ひゆうへこんのまけこみ
りとのよりとともらんど
百んのゆんせんようて
手けちうそろのこあさ
へいとあこをとろろ
まろふひぐ八ゆこて
りのどもいほけをぶい
ちうそんのあろこん
いろけあんのをとりて
ゆんぽんとうゆひこる
まうあそれさんにたまろ
こそあそれのれまろ
まうぞけとさんく
ゆこうろるかこれい大
あまるときこのてられも
あつまるけ当があぞやっも
あろろるふれ死い
秋山ろくいろゆ
やれとあにらそたん
てふさちをりてさを
さうふあひろく
七ろまそそてうひる

一高綱

景久
景親




杜戸

白山勢

和田小太郎

大五
一九九

吉年小太郎

吉十郎